

令和2年度

事業報告書
収支決算書

令和2年4月1日～令和3年3月31日

公益財団法人 音楽鑑賞振興財団

令和2年度 事業報告書

目 次

I 学校における音楽鑑賞の指導に関する研究及び指導法の普及事業（公益目的事業1）	3
1 研究活動	
（1）研究委員会による指導事例と教材の開発、及び講習会への参画	
（2）鑑賞指導に関する調査	
2 普及活動	
（1）指導法に関する講習会の開催	
①音鑑・夏の勉強会2020	
②音鑑・冬の勉強会2020	
③音鑑・ICT勉強会2020	
（2）研究大会・講習会等の後援	
（3）広報活動	
3 出版	
（1）季刊誌「音楽鑑賞教育」の発行	
（2）書籍、映像資料の発行	
II 音楽鑑賞に関する論文募集による助成事業（公益目的事業2）	6
1 令和2年度 助成研究募集	
2 賛助活動	
III 音楽鑑賞活動の普及事業（公益目的事業3）	7
1 音楽鑑賞のきっかけづくり	
2 財団保有の音楽関連資料の活用	
3 財団主催コンサートの開催	
4 財団主催音楽鑑賞講座の開催	
5 電子書籍の発行	
6 松本記念音楽迎賓館を使った音楽活動の推進	
7 チェンバロ音楽普及の支援	
IV 世田谷区岡本緑地の環境保全事業（公益目的事業4）	9
1 岡本地域緑地の保全活動	
2 緑地保全の啓発活動「みどりの講座」の実施	
V 松本記念音楽迎賓館諸施設の貸与事業（収益事業）	9

I 学校における音楽鑑賞の指導に関する研究及び指導法の普及事業 (公益目的事業1)

1 研究活動

(1) 研究委員会による指導事例と教材の開発、及び講習会への参画

令和元年度から2年計画で行ってきた、新学習指導要領の内容と新しい評価をどのように授業に落とし込んでいくか(これからの鑑賞指導をどう考え、どう構想していったらよいか)について事例開発を行い、授業づくりのポイントをまとめた。なお、例年は財団に集まり、対面による研究委員会で検討を進めていたが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、すべてオンラインによる小中各部会開催とした。

上記以外に当財団の主催講習会である「音鑑・夏の勉強会2020」「音鑑・冬の勉強会2020」におけるグループ研修、ワークショップ等を企画立案した。

No.	開催日	検討内容
第1回	令和2年 7月19日(火) 小学校部会 7月26日(日) 中学校部会	・事例の検討 ・冬の勉強会ワークショップ:内容検討
第2回	8月23日(日) 小学校部会 8月10日(月・祝) 中学校部会	・事例の検討 ・冬の勉強会ワークショップ:内容検討
第3回	9月6日(日) 小学校部会 8月22日(土) 中学校部会	・事例の検討 ・冬の勉強会ワークショップ:シナリオ検討
第4回	9月20日(日) 小学校部会 9月22日(日) 中学校部会	・事例の検討 ・冬の勉強会ワークショップ:シナリオ検討
第5回	10月18日(日) 小学校部会 10月4日(日) 中学校部会	・事例の検討 ・冬の勉強会ワークショップ:スライド検討
第6回	11月21日(土) 小学校部会 11月8日(日) 中学校部会	・事例の検討 ・Q&Aの検討
第7回	11月21日(土) 小学校部会 11月29日(日) 中学校部会	・事例の検討 ・Q&Aの検討
第8回	令和3年 1月31日(日) 小学校部会 1月17日(日) 中学校部会	・事例の検討 ・Q&Aの検討
第9回	2月28日(日) 小学校部会 2月20日(土) 中学校部会	・事例の検討 ・Q&Aの検討
第10回	3月21日(日) 小学校部会	・事例の検討 ・Q&Aの検討

研究委員一覧 ※五十音順・敬称略

区分	名前	職名・役職
主管	藤沢 章彦	当財団理事/元国立音楽大学教授
小学校	石井ゆきこ	東京都港区立芝小学校主任教諭
	梅宮 真里	福島県福島市立吉井田小学校教諭

(準)	河崎 秋彦	茨城県取手市立取手東小学校教諭
	熊倉佐和子	東京都練馬区立関町北小学校主幹教諭
	館 雅之	神奈川県横浜市立つづきの丘小学校校長
	井上 奈々	東京都荒川区立尾久第六小学校主任教諭
中学校	安部 文江	長野県小諸市立小諸東中学校教諭
	勝山 幸子	東京都港区立御成門中学校主任教諭
	高道有美子	東京都八王子市立打越中学校主任教諭
	長者久保希史子	青森県八戸市立北陵中学校教頭
	水谷 愛	埼玉県川越市立鯨井中学校教諭

(2)鑑賞指導に関する調査

各地で実践されている音楽科の授業や、音楽科で今後必要とされるICT教材、教具に関して情報を収集し、その内容を研究委員と共有した。

2 普及活動

(1)指導法に関する講習会の開催

①音鑑・夏の勉強会2020

例年、体験型の研修会として、鑑賞の授業づくりについてのグループ研修（2日間）、音楽への視野を広げる音楽講座（1日間）を、8月の中旬に3日間、定員40名、教員免許更新講習選択領域12時間＋6時間認定で行っており、令和2年度も実施に向けて準備を進めたが、新型コロナウイルス感染拡大防止対策が十分にできないと判断し、中止した。

②音鑑・冬の勉強会2020

財団の研究成果の発表と音楽科教育の今日的な課題や情報を共有すると共に、音楽の視野を広げる場として開催した。令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、初めてインターネット講習（オンデマンド動画配信）の形で開催した。なお、教員免許更新講習は、インターネット講習による本人確認や認定試験の実施が難しいと考え、実施しなかった。

配信期間：令和2年12月14日～28日（14日間）

受講者：184人〈内訳〉小学校教員58名、義務教育学校1名、中学校教員67名、
高等学校教員11名、その他47名

テーマ：よりよい授業を求めて

内 容：（1）講演「小学校音楽科・中学校音楽科における指導と評価の一体化」
（2）講演「ベートーヴェン生誕250年 ——楽譜に込めた斬新な技、新機軸」
（3）講演「くらしと祈りと芸能一家を廻る民俗芸能から学んだこと」
（4）助成研究発表「主体的・協働的な学びを促す音楽鑑賞指導の研究
——学びのデザインの視点に基づく授業づくりと実践を通して——」
（5）講演「よい授業とは何か」
（6）分科会ワークショップ「音楽のよさや面白さを味わう鑑賞指導
～新学習指導要領と新学習評価をふまえて～」

講 師：河合紳和（文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官）（1）

奥田佳道（音楽評論家）（2）

神野知恵（国立民族学博物館機関研究員）（3）

山本幸正（音楽鑑賞教育実践研究会 代表）（4）

川田龍哉（学びの未来研究所 共同代表）（5）

財団研究委員3名（6）

後 援：全日本音楽教育研究会

③ 音鑑・ICT勉強会2020

音楽科においてもICTを活用した授業が求められている現状に対し、音楽の授業で活用できる教材の作り方など、ICT活用の初歩的な勉強会の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。

(2) 研究大会・講習会等の後援

例年、鑑賞の指導法やICT活用に関する研修会に講師を派遣・紹介、機材を貸出しするなど、各地の音楽教育研究会などの研修を支援しているが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策が十分にできないと判断し、講師派遣や機材の貸し出しなどの後援を行わなかった。

(3) 広報活動

● 事業案内パンフレットの配布

事業案内パンフレットを制作し、約1,100部を配布した。

● 音楽教育研究大会への出展

新型コロナウイルス感染拡大により大会が中止となり、実施できなかった。

● 広告掲載

・日本音楽教育学会大会プログラム 他5件

● インターネットの活用

音楽教育関係者向けの当財団ウェブサイト「ONKANウェブネット」や、メールマガジン、SNSを活用し、事業情報をタイムリーに発信した。また、研修会などの音楽教育に関する情報や、「音楽鑑賞教育」誌のバックナンバー記事など授業に役立つ情報も発信した。

3 出版

(1) 季刊誌「音楽鑑賞教育」の発行

年4回、季刊「音楽鑑賞教育」(Vol. 41~Vol. 44)を発行した。特集テーマは、編集会議を設定して、実践的な授業づくりについて、いろいろな角度から検討して決定した。

また、授業づくりに役立つよう教科書掲載の教材を中心に、教材研究に役立つ情報「教材ノート」、その教材を扱った展開例「私のレシピ」を毎号3曲取り上げた。

令和元年度のVol. 39から公募を始めた「私が工夫している授業紹介」は、子どもたちの学びに効果のあった授業、ICTを活用した授業などを引き続き募集し、応募実践を編集会議で検討して掲載した。

分かりやすい誌面づくりの一つとして全頁カラーにし、編集作業の内製化を進め、外部流出費用の削減を図った。また、教員歴の若い教員にも取り組みやすく、読みやすいものとなるように、写真やワークシートの掲載を増やしたりするなど、誌面構成を工夫した。

Vol.	通巻	発行日	特集
41	545号	令和2年 4月1日	音楽の授業づくり「子ども主体の授業をつくろう！」
42	546号	令和2年 7月1日	音楽の授業づくり「どうする？ 新学習評価」
43	547号	令和2年10月1日	音楽の授業づくり「工夫がいっぱい！ 小学校全教科担任の授業」
44	548号	令和3年 1月1日	音楽の授業づくり「考えよう！ 思考力・判断力・表現力」

編集委員一覧 ※五十音順・敬称略

名 前	職 名・役 職
川池 聰	当財団理事
加藤 徹也	当財団理事／武蔵野音楽大学教授
加藤富美子	東京音楽大学客員教授
佐野 享子	横浜高等教育専門学校講師
藤沢 章彦	当財団理事／元国立音楽大学教授
山下 薫子	東京藝術大学音楽学部教授

(2) 書籍、映像資料の発行

- 過去にLD教材として収録した映像で、すでにデジタルリマスターしていた映像のなかから、DVD「尺八曲 鹿の遠音」として発行した。またDVD「雅楽 越天楽」を追加製造した。
- 平成29年度「第50回 音楽鑑賞教育振興 論文・作文募集 研究助成の部」に入選された音楽鑑賞教育実践研究会による、平成30年度から令和元年度の2年間にわたる研究の報告書を、音楽教育研究報告 第31号「主体的・協働的な学びを促す音楽鑑賞指導の研究 ―学びのデザインの視点に基づく授業づくりと実践を通して―」として出版した。

Ⅱ 音楽鑑賞に関する論文募集による助成事業 (公益事業目的2)

定款第45条(選考委員会)の規定に基づき、第4条に掲げる研究助成の対象の審査及び褒賞に関する事項を審議する選考委員会を設置している。令和2年度の選考委員会は任期2年の1年目となり下記3名の方に委嘱した。なお、選考専門委員は、下記3名の方に、審査顧問を下記1名の方に委嘱した。

※選考委員長とチーフを除き五十音順、職名及び役職は令和2年10月現在、敬称略

選考委員

辻村 哲夫	選考委員長／元文部省初等中等教育局局長／公益財団法人音楽鑑賞振興財団常務理事
河野 正幸	聖徳大学教授／全日本音楽教育研究会副会長
丸山 忠璋	元武蔵野音楽大学教授

選考専門委員 ◎：チーフ

◎藤沢 章彦	元国立音楽大学教授／公益財団法人音楽鑑賞振興財団理事
小佐野 圭	玉川大学教授／全日本音楽教育研究会常任理事
加藤富美子	東京音楽大学客員教授

審査顧問

福井 直敬	武蔵野音楽学園理事長／全日本音楽教育研究会会長
-------	-------------------------

1 令和2年度 助成研究募集

①募集テーマ

研究助成の部 「鑑賞領域の学びを中心とした、音楽科教育に資する実践的な研究」

②実施期間

募集期間：令和2年7月1日～9月30日

審査選考：令和2年10月上旬

令和2年10月7日～10月27日

令和2年11月下旬

入選発表：令和2年12月1日

令和3年4月1日

第1回審査委員会（書面開催）

審査・第2回審査委員会（オンライン開催）

最終選考・選考委員会（書面開催）

ONKANウェブネット及び郵送通知

入選研究計画発表

（季刊「音楽鑑賞教育」V o 1 . 4 5）

③応募状況

応募数 4件

④審査基準

次の(1)から(4)までを満たす研究計画である

(1) 鑑賞領域の学びを中心としている

(2) これからの音楽科教育に資する内容である

(3) 授業実践による検証を伴った研究である

(4) 研究の成果が、音楽科教育において広く普及することが見通せるものである

⑤入選結果

入選 2件

⑥副賞

助成金1 499,790円

助成金2 500,000円

（合計 999,790円）

2 賛助活動

全日本音楽教育研究会、公益財団法人日本オペラ振興会他、計6件に対して賛助を行った。

加えて、「フジコ・ヘミング presents 小さな小さなチャリティーコンサート in 東美教会」の趣旨に賛同して協賛した。4月よりYouTubeにて無料配信が開始され寄附を募ることになっている。

Ⅲ 音楽鑑賞活動の普及事業

（公益目的事業3）

1 音楽鑑賞のきっかけづくり

財団ホームページの「音楽鑑賞のすすめ」の情報の更新をもって、このテーマを進めた。その中でオペラ講座の講師派遣依頼を受けたので、音楽鑑賞のすすめの「オペラの見方聴き方」の監修者を紹介した。

2 財団保有の音楽関連資料の活用

松本記念音楽迎賓館のファンクラブの会合や館内見学の折、音源を使い、高品位の再生装置（TADシステム）での鑑賞を行なった。また館内の音楽資料室をご案内した。

3 財団主催コンサートの開催

- ① 玉川高島屋SCとのコラボレーションでコミュニティーたまがわにて9月を目途にフルートの魅力を伝えるフルートアンサンブルのコンサートを開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染対策により、一度は2月に延期したものの、最終的に同年度の開催を諦めざるを得なかった。新型コロナウイルスの状況を見極めながら令和3年度での開催を計画している。
- ② 松本記念音楽迎賓館の施設を使い、新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着いたところで下記のレクチャーコンサートを実施した。

11月1日（日）14時 テーマ「ピアニスト小佐野圭が月光を紐解く」

演奏とお話；小佐野 圭 一般3,000円 中学生以下1,000円

ベートーヴェン生誕250周年を祝って、ピアノソナタを中心に実演を交えて人と作品について解説し、最後に「月光」全曲の演奏で締めくくった。コロナ感染対策を講じて入場者を制限し、最終的に36名の参加にとどめた。

4 財団主催音楽鑑賞講座の開催

上記同様、コミュニティーたまがわにて4月から4回コースで「作曲家 知られざる人物像と作品」と題して興味ある話などを交えてCDを聴いて頂く音楽講座を開催する計画であったが、新型コロナの影響により、数度に渡り日程の再調整はしたものの、最終的には同年度の開催は断念せざるを得なかった。こちらに関しても令和3年度での開催を予定している。講師：渡邊学而理事

5 電子書籍の発行

音楽をより楽しく鑑賞するために“音楽が聴ける本”としての強みを活かした電子書籍について、令和元年度までに発行した第1巻から第3巻の広報活動を、広告掲載、チラシ配布などにより行った。

6 松本記念音楽迎賓館を使った音楽活動の推進

● 音楽に関わる人の育成

例年通り、Aホール等の空いている時間帯を、レッスン利用と称し、使いやすい価格での貸与を通して、音楽愛好家の底辺を広げ、より身近な音楽鑑賞の機会を提供することに結ぶつく演奏者の育成に努めた。

● コンサートの支援

松本記念音楽迎賓館を活用する演奏家が、演奏会を安心して開催できるよう、運営を手伝うなど、共催制度を活用した。また、桜の季節の平日は、館ご利用の常連の演奏家による友の会会員に対し、特別料金で演奏会の場を用意、松本記念音楽迎賓館への来場者を増やすよう努めた。加えて、新型コロナウイルス感染対策による聴衆客の数の制限に応じ、令和2年7月からコンサート会場としての利用者に、ホールと楽器の半額貸与を行い、コンサート開催の実現に結び付けている。この結果、5月、6月には皆無だった収録利用や発表会を含めた演奏会場としての利用は、3月までに、43回あり、約140万円の維持協力金を得た。来期も感染状況に応じ、この半額キャンペーンを続けていきたい。

- 音楽活動推進への新型コロナウイルス対応
 集客を目的とするコンサートや発表会の開催に備え、次の対策をした。
 1. 受付コーナーをビニールのカーテンで仕切った。
 2. ホールと控室にウイルスを除去する次亜塩素酸系の空気清浄機を導入した。
 3. クラスタ発生を止める低濃度オゾン発生装置を導入した。
 4. 安全で瞬時の測定が可能な検温器を購入した。
 5. 植物の成分を生かした、人体や楽器にも安全な除菌液を購入した。

7 チェンバロ音楽普及の支援

新型コロナウイルス感染対策による自粛により、チェンバロの普及活動は殆ど実施できなかった。

- ・日本チェンバロ協会主催の5月16日、17日に予定されたチェンバロの日は中止
- ・若手演奏家の発掘・育成として前期行った、曾根麻矢子氏の主催する講座も計画中止

IV 世田谷区岡本緑地の環境保全事業 (公益目的事業4)

1 岡本地域緑地の保全活動

世田谷区の保存樹林地に指定された松本記念音楽迎賓館の庭園を保全した。

2 緑地保全の啓発活動「みどりの講座」の実施

年3回のみどりの講座は、新型コロナウイルス感染対策で日程を組み換え、下記の内容で、NPO法人せたがや水辺デザインネットワークの実施協力で開催した。
 森林や自然の生き物の説明は、それぞれ専門家の実地指導で行われた。

講座名	開催日	講座内容	受講者数
第1回	9月27日(日)	世田谷の水辺と湧き水 水の流れと水辺の生きもの	9名
第2回	12月20日(日)	クリスマスリースの素材 で知る地域の自然	10名
第3回	3月28日(日)	松本音楽記念迎賓館の植物 崖線樹林の機能と役割	20名

(各回 4時間)

V 松本記念音楽迎賓館諸施設の貸与事業 (収益事業)

本年度も館の諸施設を演奏や音楽発表会以外の目的で貸し出し、収入を得ている。

ドラマ等の撮影は、令和2年4月～6月にロケ自体が自粛に追い込まれ、「じゅん散歩」の収録を含み年間15回と前年の21回を大きく下回った。お茶会も自粛となった。
 この収益事業の月単位の顕著な収入減が、持続化給付金の受給の根拠のひとつとなった。

附属明細書

事業における重要な事項は令和2年度事業報告書に記載されており、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規制」第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」は、特に無い。